

資料編－ 1

「擁壁・がけ調査票」及び「既存擁壁外観チェックシート」

擁 壁 ・ が け 調 査 票

建築主氏名		調査年月日	平成	年	月	日		
建築場所	区 町 丁目							
調査員資格・氏名	() 建築士 () 登録第 号					(印)		
・住所・電話	TEL							
敷地周囲に複数箇所、種別の異なる擁壁が存在する場合は、この用紙をコピーして、種別ごとに作成して下さい。								
規 模	位置	敷地	側	高さ	m ~ m			
	延長	m		勾配	度			
種 別 (該当するもの全てに○印)	① 間知石・間知ブロック練積み擁壁			⑥ 空石積み擁壁 (玉石積み等含む)				
	② 重力式コンクリート擁壁			⑦ 増し積み擁壁				
	③ 鉄筋コンクリート造擁壁			⑧ 2段擁壁				
	④ コンクリートブロック積み			⑨ 張出し床版付擁壁				
	⑤ ガンタ積み擁壁			⑩ その他()				
擁壁の築造時期、手続き等	擁壁の築造時期			年頃				
	手続き	有、無	有の場合、確認、許可番号					
	検査済証の有無			有、無				
擁 壁	既存擁壁外観チェックシート			評価 (点数…擁壁種別①、③で区分)				
	(評価方法詳細については、同チェックシート参照)			①(間知～)の場合		③(RC～)の場合		
	分 類	チェック項目			異常無	異常小	異常大	
					異常無	異常小	異常大	
	(a)排水環境等 (点数欄の該当するものに○印、最も高い点数のものに◎印)	1) 水抜き孔の状況	0	1.0	2.0	0	1.0	2.0
		2) 裏込め材の状況	0	1.0	2.0	0	1.0	2.0
		3) 擁壁表面の水のしみ出し状況	0	0.5	1.0	0	0.5	1.0
		4) 擁壁上部宅盤等の地形、勾配等の状況	0	1.0	2.0	0	1.0	2.0
		5) 擁壁上部宅盤の表面状態及び排水施設の状況	0	1.0	2.0	0	1.0	2.0
	(b)擁壁構造体 (点数欄の該当するものに○印、最も高い点数のものに◎印)	6) 擁壁の高さと勾配 (①の場合)	0	2.0	4.0	-	-	-
		7) 横クラック (ひび割れ)	0	4.0	6.5	0	3.0	5.5
		8) 縦、斜めクラック (ひび割れ)	0	2.5	5.0	0	1.5	4.0
		9) 出隅部 (コーナー部) クラック (ひび割れ)	0	3.0	5.5	0	2.0	4.5
		10) 伸縮目地部分等の水平移動 (ずれ)	0	3.5	6.0	0	2.5	5.0
		11) 不同沈下 (伸縮目地部分等の縦ずれ、又は開き)	0	4.5	7.0	0	3.5	6.0
12) 出隅部(コーナー部)角のずれ、又は開き		0	4.5	7.0	0	3.5	6.0	
13) 擁壁表面のふくらみについて (①の場合)		0	5.0	8.0	-	-	-	
14) 擁壁面の傾斜、折損		0	5.5	9.0	0	4.5	8.0	
15) 鉄筋の腐食等 (③の場合)		-	-	-	0	5.0	8.0	
外観上の異常等の判定	(a 最大点…◎印)		(b 最大点…◎印)		(総評点)			
	+		=					
外観上の総合評価 (該当するものに○印)	5.0 点未満		外観上の異常等が少ない					
	5.0 点以上 9.0 点未満		外観上の異常等がある					
	9.0 点以上		外観上の異常等が大きい					
なお、最大点以外の項目で、気になる異常等がある場合には、裏面調査員所見欄にその旨記載する								
その他 詳細な調査、検討を行った場合は、その内容(資料がある場合は、添付する)								

《 裏面に自然がけの調査票、調査員所見欄、注意事項等があります。 》

位置	敷地	側	延長	m
「斜面地指針」による自然がけの危険度判定表				
項目	危険度判定（点数－該当するものに○印）			各項目の具体的内容（該当するものに○印し、内容記入）
1) 高さ (H)	H<3m	3m≤H<5m	5m≤H<10m	10m≤H
	0	3	5	7
2) 傾斜度	30°未満	30°以上45°未満	45°以上	
	0	1	2	
3) 斜面地の地質構成	基盤のみ	基盤と被覆層		被覆層のみ
		基盤主体	被覆主体	
	0	1	2	3
4) オーバーハング	無		有	
	0		3	
5) 表土の厚さ	0.5m未満		0.5m以上	
	0		1	
6) 斜面からの湧水など	無		有	
	0		1	
7) 地層の走向・傾斜	その他		流れ盤（※①）	
	0		2	
8) 岩盤の割れ目	無		有	
	0		3	
9) 崩壊履歴	無		有	
	0		3	
10) 斜面崩壊防止工事の基準	満足		不満足（※②）	
	0		3	
11) 構造物の異常（※③）	無		有	
	0		3	
計				点
斜面の危険度ランク（該当するものに○印）				※①「流れ盤」…地層の傾斜が水平面に対し30°以上のもの
ランク	点数		備考	※②「不満足」…永久的な構造物で抑止されている場合で、防護工等によるものは不満足とする
A	12点以上		危険度大	
B	9～11点		危険度中	
C	8点以下		危険度小	※③「構造物」…建築物または擁壁等（一定規模以上のものは表面に記入する）
斜面地に対する建築物の位置別による建築物規模のランク及び総合評価基準（どのレベルの検討を要するか）については、「斜面地指針」による。				
【その他の状況】				
1. がけ面の植生、樹木、風化等の状況…				
2. がけ上宅盤の地形、排水勾配、排水施設等の状況…				
調査員所見 （設計上配慮した事項等）				

《 注 意 事 項 》

敷地周囲を含めた配置図（擁壁、がけの位置、レベル及び写真撮影位置、写真番号等記入）、断面図、及び写真（写真番号記入）を添付して下さい。

既存擁壁外観チェックシート

このチェックシートは、既存擁壁上に小規模建築物等を計画する場合、その擁壁の外観をチェックすることにより、その異常等について判定するものです。

本チェックシートでは、擁壁の外観上確認出来る項目のみで判定しています。

擁壁の安全性を総合的に判定するには、擁壁構造体を支持する地盤耐力、擁壁構造体の詳細、擁壁背面の土質分布、及び裏込め材の詳細、地下水位、排水等の状況を把握する必要があります。

【本チェックシートの使い方】

次ページ「既存擁壁外観チェックシートフロー」参照

1. まず、当該擁壁がⅠ 擁壁の種別 ①～⑨ (P55 分類表参照) のどれに該当するかチェックし、何グループになるかについても確認しておきます。
2. 次に、上記分類表記載の各グループの特性にしたがって調査することになります。
 - (1) Aグループのものは、一般的な擁壁です。
 - (2) Bグループの場合には、擁壁構造体としての機能を有しておらず、表面保護を主としたもので、それだけで危険性があり、外観上のチェックの他に、詳細な調査、検討を必要とします。
 - (3) Cグループの場合には、構造耐力上の問題を有していますので、それだけで危険性があり、外観上のチェックの他に、詳細な調査、検討を必要とします。

なお、詳細な調査、検討とは、擁壁構造体を支持する地盤耐力、擁壁構造体の詳細、擁壁背面の土質分布、及び裏込め材の詳細、地下水位、排水等の状況を把握し、安全性の検討を行うものです。

3. チェックシートは、2種類に分かれています。

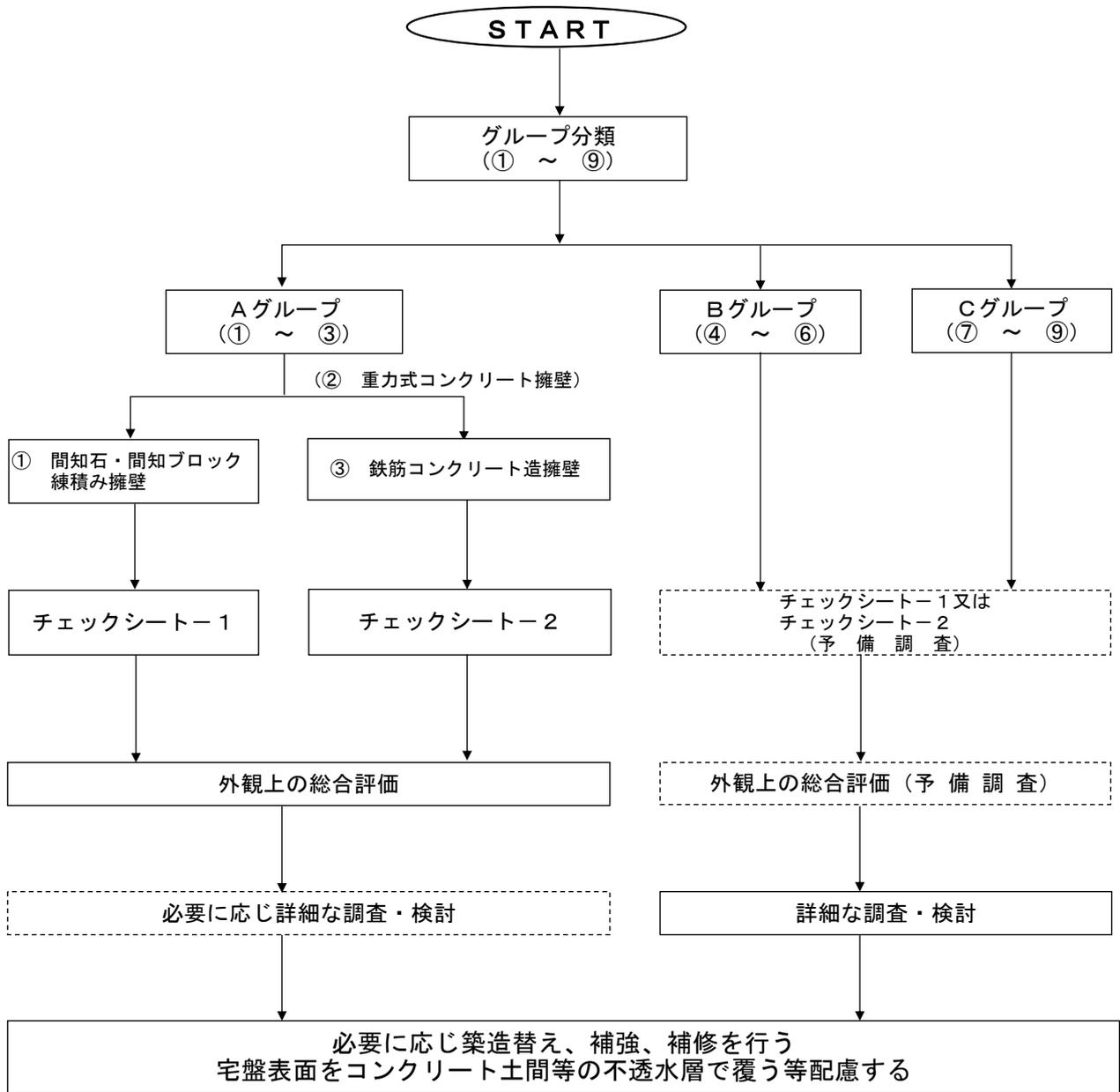
前半Ⅱ-1 (チェックシート-1) は、Aグループの場合の①間知石・間知ブロック練積み擁壁を対象としています。

後半Ⅱ-2 (チェックシート-2) は、Aグループの場合の③鉄筋コンクリート造擁壁を対象としています。大臣認定「CP型枠コンクリートブロック」擁壁についても、準用することができます。

②重力式コンクリート擁壁の場合にも該当項目をチェックすることにより参考資料とすることが出来ます。(なお②の場合は、①と③の評価点数の平均値を目安として評価します。)

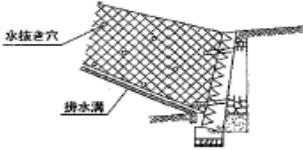
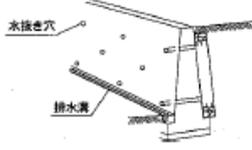
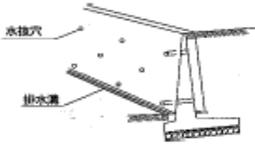
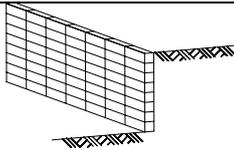
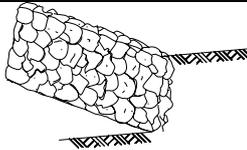
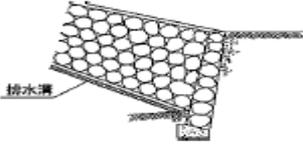
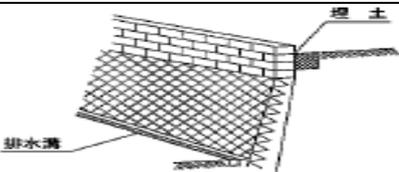
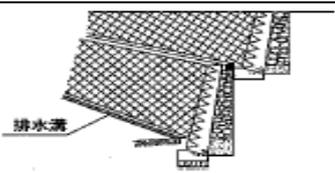
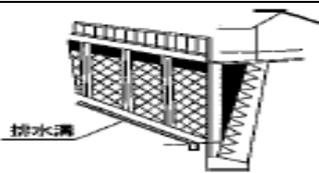
B、Cグループの場合にも、チェックシート-1を中心に、予備調査として利用することが出来ます。
4. 大谷石積擁壁については、外観上の劣化が少なく比較的状态の良いものは、チェックシート-1を準用することができますが、古いもので風化、劣化の著しいものは、外観上のチェックの他に詳細な調査、検討を必要とします。
5. 具体的には、チェックシート-1、及びチェックシート-2共、各項目の左側の□にチェックし、前半の排水に関する環境、条件等のチェックの最大点 (a) と後半の擁壁構造体についてのチェックの最大点 (b) の合計点により外観上の異常等について判定を行います。

判定結果に応じて、既存擁壁異常等判定フロー (P19) により対応を検討します。
6. 補強、補修等の方法については、目地詰め等の簡単な方法は、本チェックシート内の各表に対応として記載されていますが、各補強工法等の詳細については、国土交通省ホームページ掲載の『被災宅地災害復旧技術マニュアル (暫定版)』等が参考となります。



既存擁壁外観チェックシートフロー

I. 擁壁の種別分類表 (下記の分類によりチェックし、グループについても確認して下さい。)

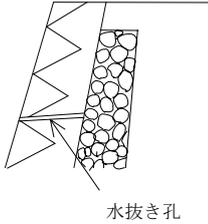
No チェック	擁 壁 の 種 別	
【Aグループ】 一般的な擁壁です。		
① <input type="checkbox"/>	間知石・間知ブロック練積み 擁壁	
② <input type="checkbox"/>	重力式コンクリート擁壁	
③ <input type="checkbox"/>	鉄筋コンクリート造擁壁	
【Bグループ】 擁壁構造体としての機能を有しておらず、表面保護を主としたもので、それだけで危険性があり、外観上のチェックの他に、詳細な調査、検討を必要とします。		
④ <input type="checkbox"/>	コンクリートブロック積み	
⑤ <input type="checkbox"/>	ガンタ積み擁壁	
⑥ <input type="checkbox"/>	空石積み擁壁 (玉石積み等含む)	
【Cグループ】 構造耐力上の問題を有していますので、それだけで危険性があり、外観上のチェックの他に、詳細な調査、検討を必要とします。		
⑦ <input type="checkbox"/>	増し積み擁壁	
⑧ <input type="checkbox"/>	2段擁壁	
⑨ <input type="checkbox"/>	張出し床版付擁壁	

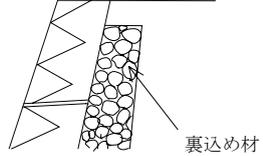
II-1 チェックシート-1 (①間知石・間知ブロック練積み擁壁用)

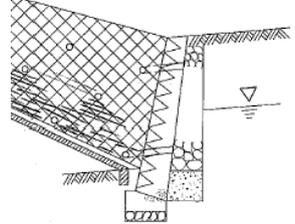
それぞれ、左側の□にチェックし、右下の□に点数を記入して、1)～5)までの最大点(a)と6)～14)までの最大点(b)を求め、最後で合計します。

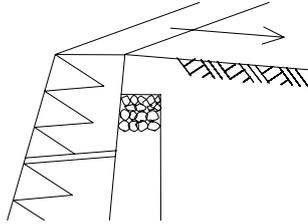
また、対応欄に項目により外構計画及び補修等で考えられる方法を記入してあります。

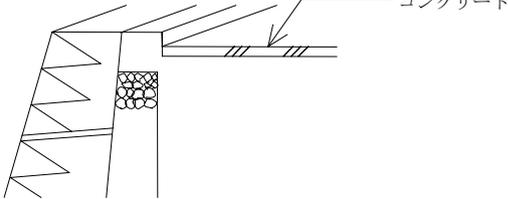
(a) チェック項目1)～5)は、排水に関する環境、条件等のチェックです。

1) チェック項目	水抜き孔の状況	
調査方法	内径及び面積あたりの数量を確認し記録、写真を撮ります。	
対応	水抜き孔が不足しているもので、擁壁高さが低いものは補修が可能です。	
<input type="checkbox"/> 内径75mm程度の水抜き孔が3㎡当たり1箇所程度以上設けられている。	0	
<input type="checkbox"/> 水抜き孔はあるが、径が小さい、数が少ない、あるいは孔が詰まっている。	1.0	
<input type="checkbox"/> 水抜き孔がほとんどなく、水が抜けにくい状況である。	2.0	

2) チェック項目	裏込め材の状況	
調査方法	水抜き孔、又は上部宅盤から鋼棒等で突くことにより、裏込め材の有無を確認出来ます。	
対応	裏込め材がないもので、擁壁高さが低いものは補修が可能です。	
<input type="checkbox"/> 裏込め材が全体にあり、良好である。	0	
<input type="checkbox"/> 土が一部流失していたり、部分的にしか裏込め材がない。	1.0	
<input type="checkbox"/> 裏込め材がなく、擁壁裏面の水が抜けにくい状況である。	2.0	

3) チェック項目	擁壁表面の水のしみ出し状況	
調査方法	水抜き及び擁壁表面の状態を観察することにより、擁壁背面の水位、湧水等擁壁背面の水の影響度を確認記録し、写真を撮ります。	
対応	擁壁背面の水位、湧水の可能性や、水が集まりやすい可能性等を確認します。	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面が乾いている。	0.0	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面が湿っている。	0.5	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に常に水がしみ出し、流出している。	1.0	

4) チェック項目	擁壁上部宅盤等の地形、勾配等の状況		
調査方法	レベルを含めた測量図等により、断面図を作成確認し、写真を撮ります。		
対応	擁壁側を水上勾配として、地形的に水が流入する場合は、排水施設を設けます。		
<input type="checkbox"/> 擁壁側が水上となる勾配になっていて、擁壁側へ水が集まる心配がない。	0		
<input type="checkbox"/> 宅盤は、水勾配がなく平坦で滞留し、浸透する可能性がある。	1.0		
<input type="checkbox"/> 擁壁側へ水が集まる地形、あるいは宅盤周囲の斜面から水が流れ込む状況となっている。	2.0		

5) チェック項目	擁壁上部宅盤の表面状態及び排水施設の状況		
調査方法	表面状態及び排水施設の状況を確認し、写真を撮ります。		
対応	現状の状態をまず確認し、外構計画により改善が可能です。		
<input type="checkbox"/> 擁壁側の宅盤表面がコンクリート等不透水層で覆われていて、排水溝及び流末も排水管に接続されていて良好な状態である。	0		
<input type="checkbox"/> 擁壁側の宅盤は、浸透性の土で、表面に地割れ、または窪地がある。あるいは、排水施設が不十分である。	1.0		
<input type="checkbox"/> 擁壁側の宅盤は、浸透性の土で、流水等により地盤が陥没していて、排水施設もない。	2.0		

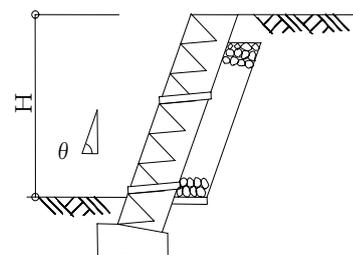
排水に関する環境、条件等の変状点を算出します。

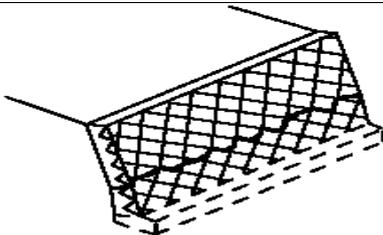
チェック項目1)～5)までの最大点を記入して下さい。

(a) = 点

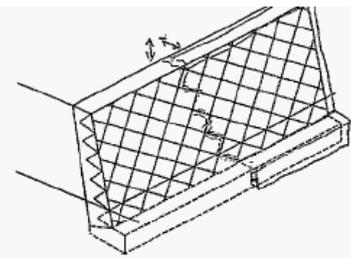
(b) チェック項目6)～14)は、擁壁構造体についてのチェックです。

6) チェック項目	擁壁の高さと勾配			
調査方法	勾配は、勾配計 (SLANT RULE) 等により測定し、擁壁表面長さから垂直高さを算出します。上部法面の有無、高さも記録しておきます。			
対応	基準に合わない擁壁です。必要に応じ、詳細な調査、検討を行います。			
高さH 角度θ	3m以下	3m超え 4m以下	4m超え 5m以下	
普通の勾配	<input type="checkbox"/> 75° 以下	<input type="checkbox"/> 70° 以下	<input type="checkbox"/> 65° 以下	0.0
やや急な勾配	<input type="checkbox"/> 75° 超え 80° 以下	<input type="checkbox"/> 70° 超え 80° 以下	<input type="checkbox"/> 65° 超え 75° 以下	2.0
急な勾配	<input type="checkbox"/> 80° 超え	<input type="checkbox"/> 80° 超え	<input type="checkbox"/> 75° 超え	4.0

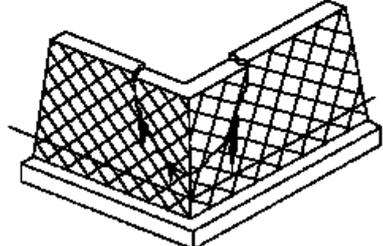


7) チェック項目	横クラック (ひび割れ) について	
調査方法	擁壁表面全体のクラックの有無、クラックがある場合その位置、形状、クラック幅等を測定記録し、写真を撮ります。	
対応	必要に応じ注入、モルタル目地詰め等により補修します。	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に横クラックは特にな	0	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に水平クラックがあり、クラック幅は 1mm~20mm の範囲である。	4.0	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に水平クラックがあり、クラック幅は 20mm 以上に開いている。	6.5	

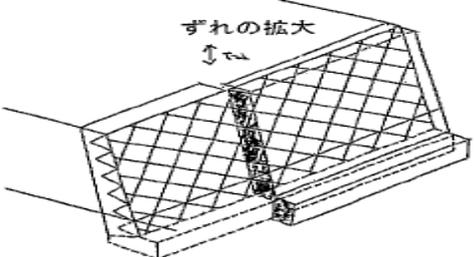


8) チェック項目	縦、斜めクラック (ひび割れ) について	
調査方法	擁壁表面全体のクラックの有無、クラックがある場合その位置、形状、クラック幅等を測定記録し、写真を撮ります。	
対応	必要に応じ注入、モルタル目地詰め等により補修します。	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に縦、斜めクラックは特にな	0	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に縦、斜めクラックがあり、クラック幅は 1mm~20mm の範囲である。	2.5	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に縦、斜めクラックがあり、クラック幅は 20mm 以上に開いている。あるいは、クラック左右でずれが生じている。	5.0	

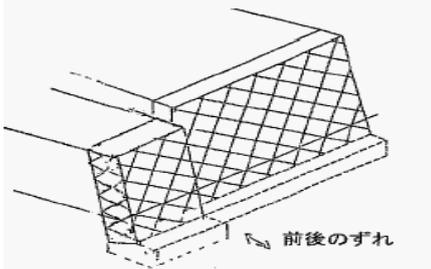


9) チェック項目	出隅部 (コーナー部) クラック (ひび割れ) について	
調査方法	出隅部擁壁表面のクラックの有無、クラックがある場合その位置、形状、クラック幅等を測定記録し、写真を撮ります。	
対応	必要に応じ注入、モルタル目地詰め等により補修します。	
<input type="checkbox"/> 出隅部擁壁表面に縦、斜めクラックは特にな	0	
<input type="checkbox"/> 出隅部擁壁表面に縦、斜めクラックがあり、クラック幅は 1mm~20mm の範囲である。	3.0	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に縦、斜めクラックがあり、クラック幅は 20mm 以上に開いている。あるいはクラック左右でずれが生じている。	5.5	

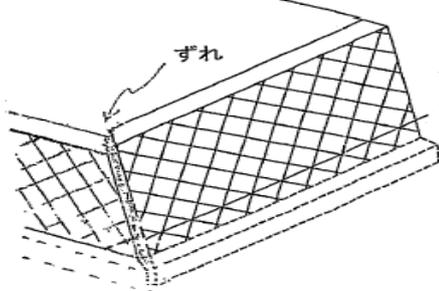


10) チェック項目	伸縮目地（エキスパンションジョイント）部分等の水平移動（ずれ）について	
調査方法	伸縮目地頂部及び下端部の水平移動（ずれ）を測定記録し、写真を撮ります。	
対応	ずれの大きさと経過年数にもよりますが、その原因とずれが進行中か確認します。	
<input type="checkbox"/> 伸縮目地部分等に特に水平移動（ずれ）はない。	0	
<input type="checkbox"/> 伸縮目地部分等が少し（20mm 未満）ずれている。	3.5	
<input type="checkbox"/> 伸縮目地部分等がかなり（20mm 以上）ずれている。	6.0	

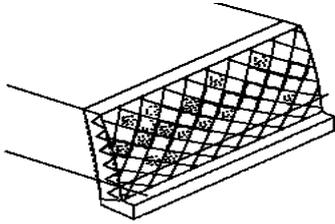


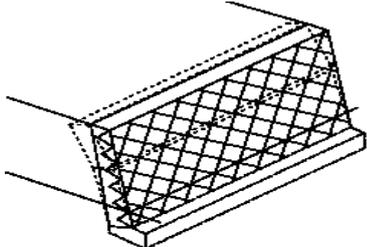
11) チェック項目	不同沈下（伸縮目地部分等の縦ずれ、又は開き）について	
調査方法	伸縮目地頂部の縦ずれ又は開き幅を測定記録し、写真を撮ります。	
対応	ずれ等の大きさと経過年数にもよりますが、その原因とずれ等が進行中か確認します。	
<input type="checkbox"/> 不同沈下（伸縮目地部分等の縦ずれ、又は開き）はない。	0	
<input type="checkbox"/> 不同沈下（伸縮目地部分等の縦ずれ、又は開き）が少し（20mm 未満）ある。	4.5	
<input type="checkbox"/> 不同沈下（伸縮目地部分等の縦ずれ、又は開き）がかなり（20mm 以上）ある。	7.0	



12) チェック項目	出隅部（コーナー部）角のずれ、又は開きについて	
調査方法	出隅部（コーナー部）角のずれ、又は開き幅を測定記録し、写真を撮ります。	
対応	ずれ等の大きさと経過年数にもよりますが、その原因とずれ等が進行中か確認します。	
<input type="checkbox"/> 出隅部（コーナー部）角に特に異常はない。	0	
<input type="checkbox"/> 出隅部（コーナー部）角が少し（20mm 未満）ずれ、又は開いている。	4.5	
<input type="checkbox"/> 出隅部（コーナー部）角が大きく（20mm 以上）ずれ、又は開いている。	7.0	



13) チェック項目	擁壁表面のふくらみについて		
調査方法	擁壁表面にふくらみや積石のずれ、抜け落ち箇所がないか確認し、あれば状態を記録し、写真を撮ります。		
対応	ふくらみの徴候にもよりますが、その原因と進行中かどうかを確認し対応します。		
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に特にふくらみ等の異常はない。	0		<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 擁壁表面が一部ふくらんでいる。	5.0		
<input type="checkbox"/> 擁壁表面が広範囲にふくらんでいる。あるいは一部、積石（間知石、または間知ブロック）に抜け落ち箇所がある。	8.0		

14) チェック項目	擁壁面の傾斜、折損について		
調査方法	擁壁面の傾斜、折損がないかどうか確認し、あれば状態等を記録し、写真を撮ります。		
対応	傾斜、折損の原因と進行中かどうかを確認し対応します。		
<input type="checkbox"/> 擁壁面に特に傾斜、折損はない。	0		<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 擁壁面が、水平クラック部を境に傾斜（前傾、又は後傾）している。	5.5		
<input type="checkbox"/> 擁壁面が、全体に水平クラック部を境にかなり傾斜（前傾、又は後傾）し、かつ途中に折損がみられる。	9.0		

擁壁構造体についての変状点を算出します。

チェック項目6)～14)までの最大点を記入して下さい。

(b) = 点

【外観上の異常等の判定】

排水に関する環境、条件等の変状点 (a) と擁壁構造体についての変状点 (b) をもとに既存擁壁の異常等を判定します。

総 評 点 = (a) 点 + (b) 点 = 点

[外観上の総合評価]

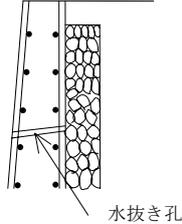
該当に○	総 評 点	既存擁壁の外観上の異常等についての判定
	5.0 点未満	外観上の異常等が少ない
	5.0 点以上 9.0 未満	外観上異常等がある
	9.0 点以上	外観上異常等が大きい

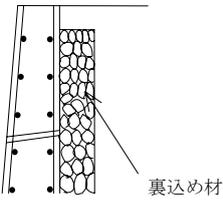
II-2 チェックシート-2 (③鉄筋コンクリート造擁壁用)

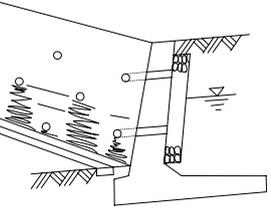
それぞれ、左側の□にチェックし、右下の□に点数を記入して、1)～5)までの最大点(a)と7)～15)までの最大点(b)を求め、最後で合計します。

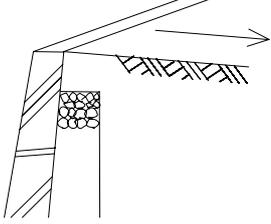
また、対応欄に項目により外構計画及び補修等で考えられる方法を記入してあります。

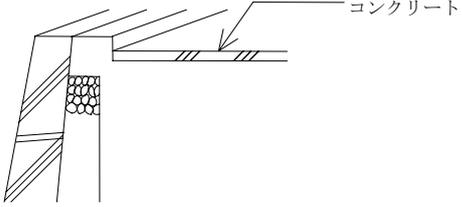
(a) チェック項目1)～5)は、排水に関する環境、条件等のチェックです。

1) チェック項目	水抜き孔の状況	
調査方法	内径及び面積あたりの数量を確認記録し、写真を撮ります。	
対応	水抜き孔が不足しているもので、擁壁高さが低いものは補修が可能です。	
<input type="checkbox"/> 内径75mm程度の水抜き孔が3㎡当たり1箇所程度以上設けられている。	0	
<input type="checkbox"/> 水抜き孔はあるが、径が小さい、数が少ない、あるいは孔が詰まっている。	1.0	
<input type="checkbox"/> 水抜き孔がほとんどなく、水が抜けにくい状況である。	2.0	

2) チェック項目	裏込め材の状況	
調査方法	水抜き孔、又は上部宅盤から鋼棒等で突くことにより、裏込め材の有無を確認出来ます。	
対応	裏込め材がないもので、擁壁高さが低いものは補修が可能です。	
<input type="checkbox"/> 裏込め材が全体にあり、良好である。	0	
<input type="checkbox"/> 土が一部流失していたり、部分的にしか裏込め材がない。	1.0	
<input type="checkbox"/> 裏込め材がなく、擁壁裏面の水が抜けにくい状況である。	2.0	

3) チェック項目	擁壁表面の水のしみ出し状況	
調査方法	水抜き及び擁壁表面の状態を観察することにより、擁壁背面の水位、湧水等擁壁背面の水の影響度を確認記録し、写真を撮ります。	
対応	擁壁背面の水位、湧水の可能性や、水が集まりやすい可能性等を確認します。	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面が乾いている。	0	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面が湿っている。	0.5	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に常に水がしみ出し、流出している。	1.0	

4) チェック項目	擁壁上部宅盤等の地形、勾配等の状況	
調査方法	レベルを含めた測量図等により、断面図を作成確認し、写真を撮ります。	
対応	擁壁側を水上勾配として、地形的に水が流入する場合は、排水施設を設けます。	
<input type="checkbox"/> 擁壁側が水上となる勾配になっていて、擁壁側へ水が集まる心配がない。	0	
<input type="checkbox"/> 宅盤は、水勾配がなく平坦で滞留し、浸透する可能性がある。	1.0	
<input type="checkbox"/> 擁壁側へ水が集まる地形、あるいは宅盤周囲の斜面から水が流れ込む状況となっている。	2.0	

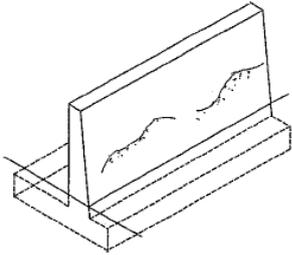
5) チェック項目	擁壁上部宅盤の表面状態及び排水施設の状況	
調査方法	表面状態及び排水施設の状況を確認し、写真を撮ります。	
対応	現状の状態をまず確認し、外構計画により改善が可能です	
<input type="checkbox"/> 擁壁側の宅盤表面がコンクリート等不透水層で覆われていて、排水溝及び流末も排水管に接続されていて良好な状態である。	0	
<input type="checkbox"/> 擁壁側の宅盤は、浸透性の土で、表面に地割れ、または窪地がある。あるいは、排水施設が不十分である。	1.0	
<input type="checkbox"/> 擁壁側の宅盤は、浸透性の土で、流水等により地盤が陥没していて、排水施設もない。	2.0	

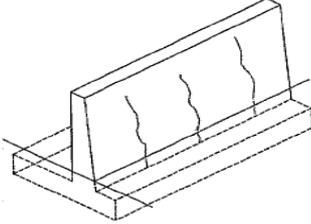
排水に関する環境、条件等の変状点を算出します。

チェック項目 1) ~ 5) までの最大点を記入して下さい。

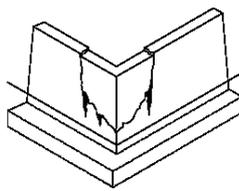
(a) = 点

(b) チェック項目 7) ~ 15) は、擁壁構造体についてのチェックです。

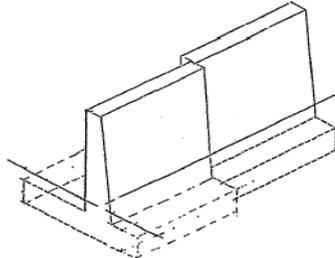
7) チェック項目	横クラック（ひび割れ）について	
調査方法	擁壁表面全体のクラックの有無、クラックがある場合その位置、形状、クラック幅等を測定記録し、写真を撮ります。	
対応	必要に応じ注入、モルタル詰め等により補修します。	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に横クラックは特にない。	0	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に水平クラックがあり、クラック幅は 1mm ~ 5mm の範囲である。	3.0	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に水平クラックがあり、クラック幅は 5mm 以上に開いている。	5.5	

8) チェック項目	縦、斜めクラック（ひび割れ）について	
調査方法	擁壁表面全体のクラックの有無、クラックがある場合その位置、形状、クラック幅等を測定記録し、写真を撮ります。	
対応	必要に応じ注入、モルタル詰め等により補修します。	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に縦、斜めクラックは特にな	0	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に縦、斜めクラックがあり、クラック幅は1mm～5mmの範囲である。	1.5	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に縦、斜めクラックがあり、クラック幅は5mm以上に開いている。	4.0	

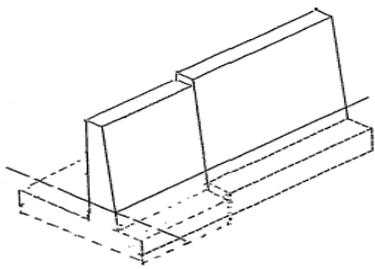


9) チェック項目	出隅部（コーナー部）クラック（ひび割れ）について	
調査方法	出隅部擁壁表面のクラックの有無、クラックがある場合その位置、形状、クラック幅等を測定記録し、写真を撮ります。	
対応	必要に応じ注入、モルタル詰め等により補修します。	
<input type="checkbox"/> 出隅部擁壁表面に縦、斜めクラックは特にな	0	
<input type="checkbox"/> 出隅部擁壁表面に縦、斜めクラックがあり、クラック幅は1mm～5mmの範囲である。	2.0	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面に縦、斜めクラックがあり、クラック幅は5mm以上に開いている。あるいは、クラック左右でずれが生じている。	4.5	

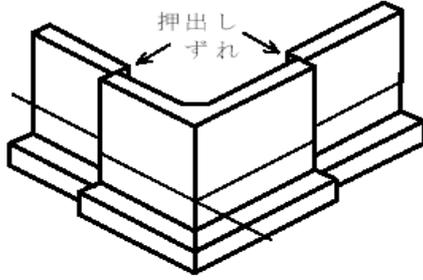


10) チェック項目	伸縮目地（エキスパンションジョイント）部分等の水平移動（ずれ）について	
調査方法	伸縮目地頂部及び下端部の水平移動（ずれ）を測定し、記録します。	
対応	ずれの大きさと経過年数にもよりますが、その原因とずれが進行中か確認します。	
<input type="checkbox"/> 伸縮目地部分等に特に水平移動（ずれ）は	0	
<input type="checkbox"/> 伸縮目地部分等が少し（20mm未満）ずれて	2.5	
<input type="checkbox"/> 伸縮目地部分等がかなり（20mm以上）ず	5.0	

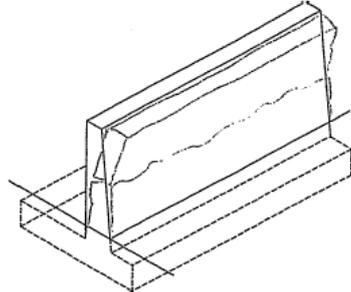


11) チェック項目	不同沈下（伸縮目地部分等の縦ずれ、又は開き）について	
調査方法	伸縮目地頂部の縦ずれ又は開き幅を測定し、記録します。	
対応	ずれ等の大きさと経過年数にもよりますが、その原因とずれ等が進行中か確認します。	
<input type="checkbox"/> 不同沈下（伸縮目地部分等の縦ずれ、又は開き）はない。	0	
<input type="checkbox"/> 不同沈下（伸縮目地部分等の縦ずれ、又は開き）が少し（20mm 未満）ある。	3.5	
<input type="checkbox"/> 不同沈下（伸縮目地部分等の縦ずれ、又は開き）がかなり（20mm 以上）ある。	6.0	

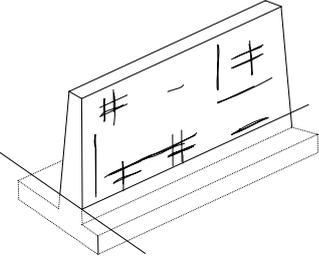


12) チェック項目	出隅部（コーナー部）角のずれ、又は開きについて	
調査方法	出隅部（コーナー部）角のずれ、又は開き幅を測定し、記録します。	
対応	ずれ等の大きさと経過年数にもよりますが、その原因とずれ等が進行中か確認します。	
<input type="checkbox"/> 出隅部（コーナー部）角に特に異常はない。	0	
<input type="checkbox"/> 出隅部（コーナー部）角が少し（20mm 未満）ずれ、又は開いている。	3.5	
<input type="checkbox"/> 出隅部（コーナー部）角が大きく（20mm 以上）ずれ、又は開いている。	6.0	



14) チェック項目	擁壁面の傾斜、折損について	
調査方法	擁壁面の傾斜、折損がないかどうか確認し、あれば状態等を記録し、写真を撮ります。	
対応	傾斜、折損の原因と進行中かどうかを確認し対応します。	
<input type="checkbox"/> 擁壁面に特に傾斜、折損はない。	0	
<input type="checkbox"/> 擁壁面が、水平クラック部を境に傾斜（前傾、又は後傾）している。	4.5	
<input type="checkbox"/> 擁壁面が、全体に水平クラック部を境にかなり傾斜（前傾、又は後傾）し、かつ途中に折損がみられる。	8.0	



15) チェック項目	鉄筋の腐食等について	
調査方法	擁壁表面及び側面に鉄筋腐食によるクラック、ふくれ、あるいは錆汁、コンクリートの剥離等がないか確認し、あれば状態等を記録し、写真を撮ります。	
対応	施工不良、経年劣化などその原因を確認するとともに、背面側の引張応力筋の状態も調査します。表面側等の鉄筋腐食部については、RC躯体修復工法（錆処理、断面修復材等）等により補修します。	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面及び側面に鉄筋腐食によるクラック、ふくれ、あるいは錆汁等は見受けられない。	0	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面及び側面に鉄筋腐食によるクラック、ふくれ、あるいは錆汁等が部分的に見受けられる。	5.0	
<input type="checkbox"/> 擁壁表面及び側面に広範囲に鉄筋腐食によるクラック、ふくれ、コンクリートの剥離あるいは錆汁等が見受けられる。	8.0	

擁壁構造体についての変状点を算出します。

チェック項目 7) ～15) までの最大点を記入して下さい。

(b) = 点

【外観上の異常等の判定】

排水に関する環境、条件等の変状点 (a) と擁壁構造体についての変状点 (b) をもとに既存擁壁の異常等を判定します。

総 評 点 = (a) 点 + (b) 点 = 点

[外観上の総合評価]

該当に○	総 評 点	既存擁壁の外観上の異常等についての判定
	5.0 点未満	外観上の異常等が少ない
	5.0 点以上 9.0 未満	外観上異常等がある
	9.0 点以上	外観上異常等が大きい